



キャリア教育を十分に展開するためには、それぞれの学校等におけるキャリア教育が「縦」と「横」の連携によって支えられる必要があります。

■ 幼児・児童・生徒の発達段階に応じた「縦」の連携として、学年間・校種間等の緊密な協力や円滑な接続が必要です。

■ 様々な教育力を生かす「横」の連携として、学校等と家庭や地域・社会、企業、就労支援諸機関、職能団体や労働組合等の関係機関、NPO等との協力や協働を活性化することが必要です。

■ 「縦」の連携 = 学年間・校種間等のつながり

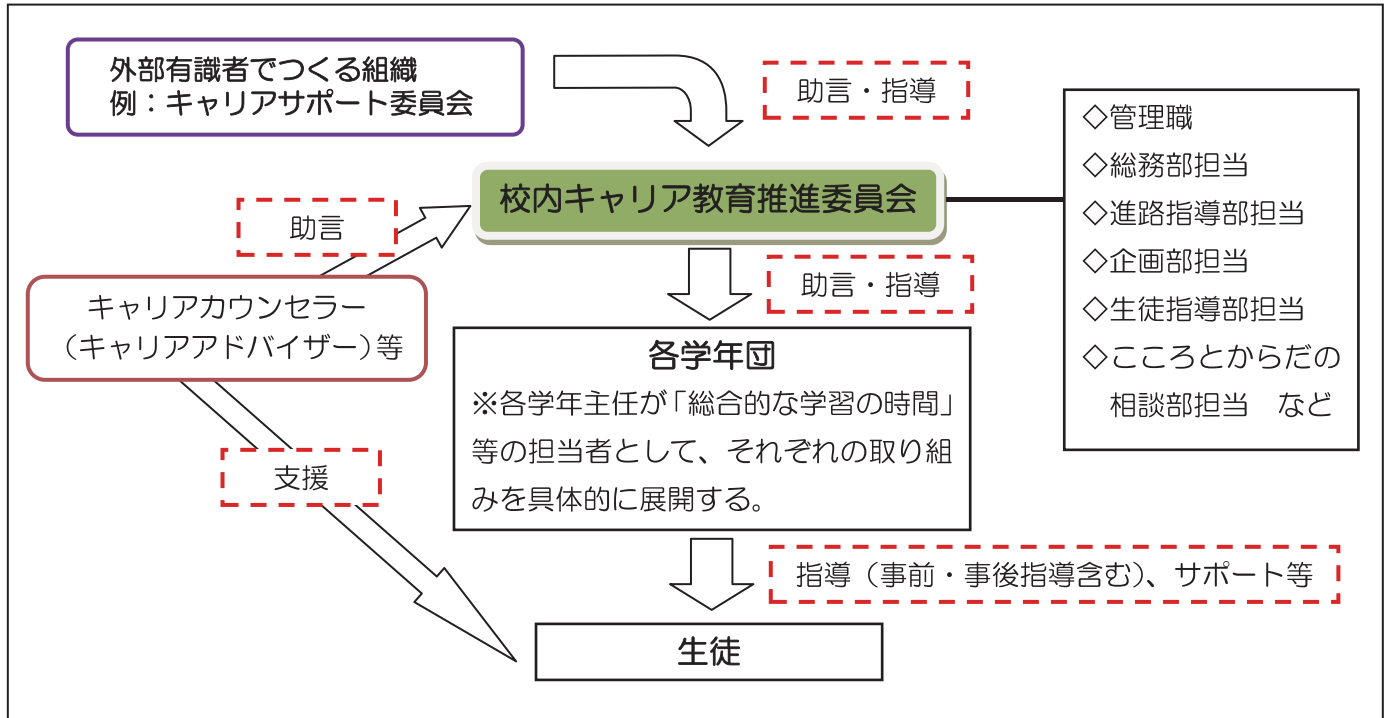
	学年間等の連携について	校種間等の連携について	キーワード	具体的な手立て
就学前 	<p>保育所・幼稚園等では、一人一人の幼児が自ら周囲の環境とかかわり、個々の発達に必要な経験を重ねていくことができるよう計画的に指導し、その子どもの育ちを次年度に引き継いでいくことが必要。</p>	<p>子どもの生活や発達、学びの連続性を踏まえ保育内容の工夫を図るとともに、就学に向けて、保育所・幼稚園等の子どもと小学校の児童との交流、職員同士の交流、情報共有や相互理解など、小学校との積極的な連携を図ることが大切。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◇発達を見通した組織的・継続的な取り組み ◇遊びを通しての総合的な指導 ◇小学校への円滑な接続 	<ul style="list-style-type: none"> ◇教育課程・保育課程の改善、指導計画の充実 ◇園内研修の充実 例えば・・幼児と児童の交流活動、保・幼・小の合同研究会・連携研修会、指導要録や保育記録など
小学校 	<p>小学校では、学級担任が基本的に全教科等の指導をしていることから、個々の教師のキャリア教育に対する認識の程度や経験の違いが学級ごとの取り組みの差を生むことがあります。そのため、教師一人一人がキャリア教育の理解を深め、児童の発達の段階に応じた6年間を見通す取り組みを行うことが必要。</p>	<p>異なる学校種の教職員が集まる研究会等を活用し、相互の情報交換、キャリア発達認識の共有、指導内容の系統的・発展的な接続。 【キャリア教育連絡協議会等の開催】上級学校への入学前に、学校間連絡会等で、個々の児童生徒のキャリア発達に関する引き継ぎの実施。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◇小1プロブレムへの対応 ◇児童理解を目指した個への対応 ◇組織的、計画的な取り組み ◇幼・保・中、家庭や地域との連携 ◇家庭や学校での「役割」、「役割を果たそうとする意欲」の醸成 	<ul style="list-style-type: none"> ◇学校としてのキャリア教育の目標を設定 ◇小学校からの系統性をもち、体験活動と教科学習等とのつながりに一貫性をもたせた全体計画の作成と推進 ◇校内研修会の充実 例えば・・学校全体でのボランティア活動、文化行事や体育行事の連携、防災避難訓練、ポートフォリオの継続的活用など
中学校 	<p>中学校では、教科担任制によるため、個々の教師のキャリア教育と教科指導との関係の捉え方に差が生じてしまうことが考えられます。そのため、進路指導主任等を中心とした指導組織・体制を確立して、学年間の連携を密にして継続的、発展的に取り組みを進めることが必要。</p>	<p>異なる学校種の教職員が集まる研究会等を活用し、相互の情報交換、キャリア発達認識の共有、指導内容の系統的・発展的な接続。 【キャリア教育連絡協議会等の開催】中学校の職場体験発表会等への学区内小学校高学年児童の参加を促す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◇中1ギャップへの対応 ◇職場体験の教育課程への位置付け ◇卒業後の進路の円滑な移行支援 	<ul style="list-style-type: none"> ◇学校としてのキャリア教育の目標を設定 ◇小学校からの系統性をもち、体験活動と教科学習等とのつながりに一貫性をもたせた全体計画の作成と推進 ◇校内研修会の充実 例えば・・学校全体でのボランティア活動、文化行事や体育行事の連携、防災避難訓練、ポートフォリオの継続的活用など
高等学校 	<p>高等学校では、卒業直後の多様な進路選択を視野に入れた指導が中心となり、いわゆる「出口指導」に偏ってしまうことがあります。そのため将来社会人として自立できることを目指し、入学から卒業までの各学年において将来の社会参画を具体的に見据え、その実現に向けた学習・活動を積み重ねられるよう指導・援助することが必要。</p>	<p>異なる学校種の教職員が集まる研究会等を活用し、相互の情報交換、キャリア発達認識の共有、指導内容の系統的・発展的な接続。 【キャリア教育連絡協議会等の開催】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◇中学校との接続への配慮 ◇高度専門職業人への対応 ◇上級学校への接続に対する配慮 	<ul style="list-style-type: none"> ◇学校としてのキャリア教育の目標を設定 ◇小・中学校からの引き継ぎを生かした体系的で一貫したキャリア教育の全体計画の作成と推進 ◇校内研修会の充実 例えば・・ポートフォリオの継続的活用、先輩からのメッセージ、インターンシップ、キャリアカウンセリング教員研修、高等学校と中学校間での生徒支援につながる情報共有など



■ 学校等の推進組織・体制の充実

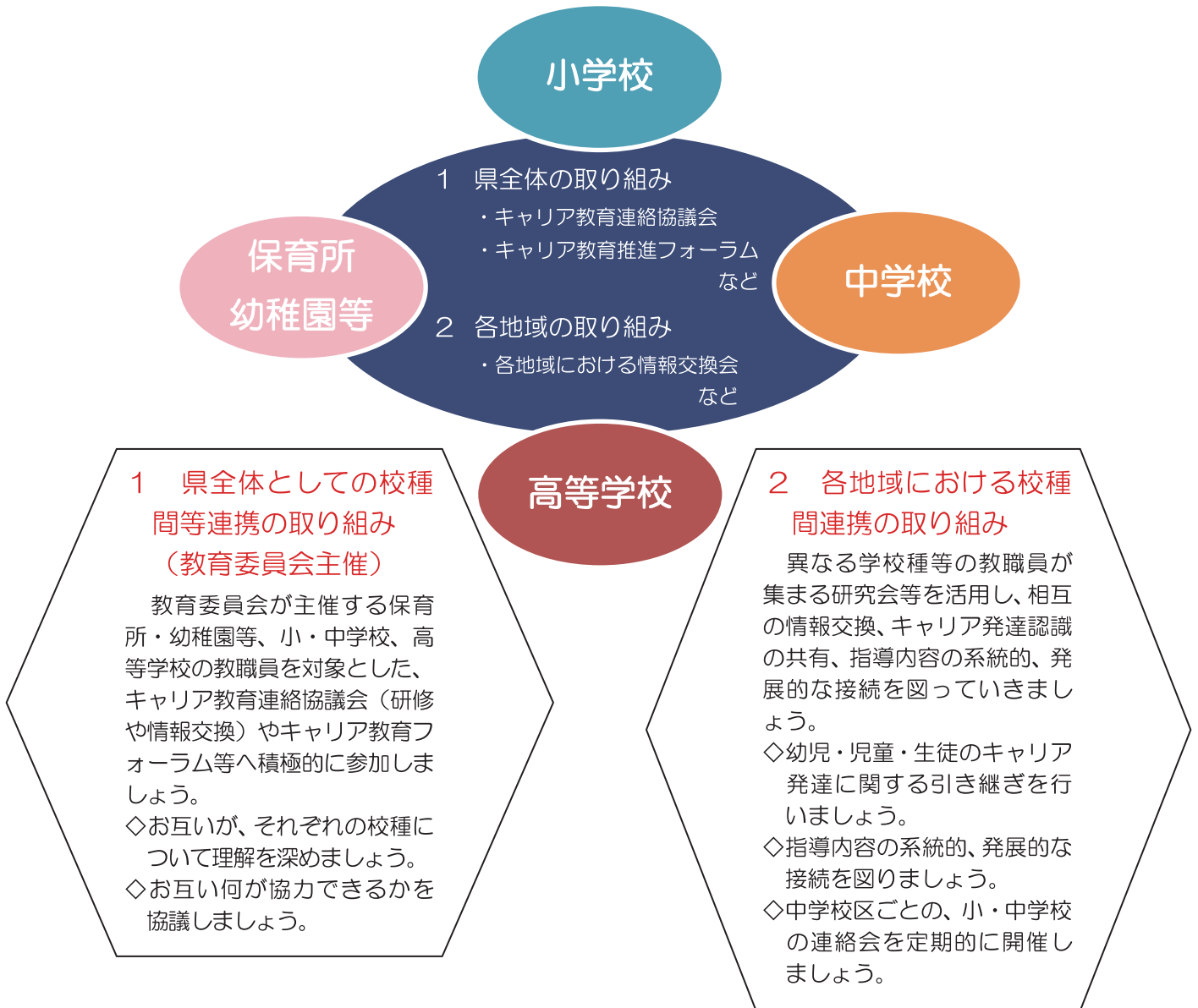
キャリア教育を計画的・系統的に推進するため、委員会や担当者を適切に配置するとともに、学校等全体で一丸となりキャリア教育推進のため協働できる体制を構築する必要があります。

◇ 例：〇〇学校キャリア教育推進体制

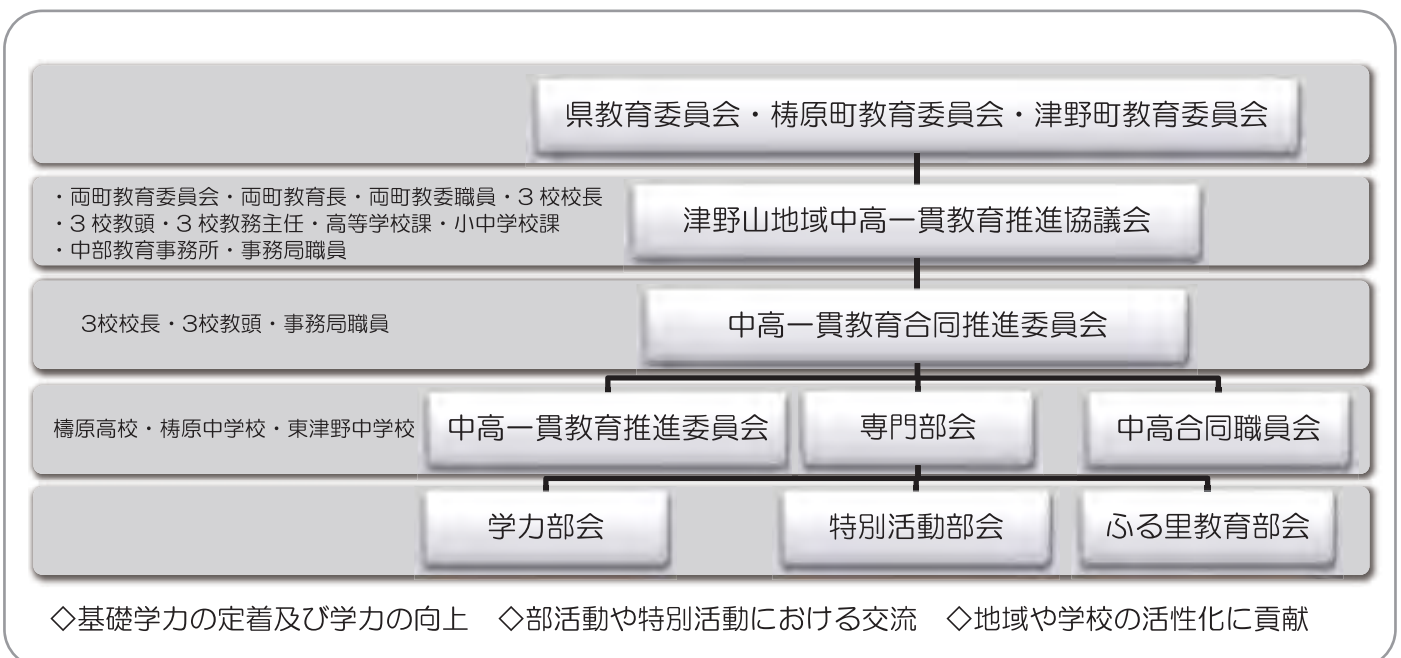


■ 教職員研修を充実させるために

- 1 管理職が自らのキャリア教育に対するビジョンやキャリア教育推進計画を具体的に打ち出し、周知する場とする。
- 2 教職員全員がキャリア教育の理念や意義に対して共通理解を得る場にする。
 - ◇ キャリア教育がもたらす効果
 - ◇ 子どもたちにどのような能力を培えるのかなど
- 3 自校等の特色や子どもたちの実態に応じたキャリア教育の展開全般に関わる実践能力の向上を図り、キャリア教育の具体的な展開の手法等を、実践的に学ぶ場にする。
 - ◇ 目標の設定
 - ◇ 指導計画の立案
 - ◇ 教材の吟味
 - ◇ 教材作成
 - ◇ 関連機関との連携の方法など
- 4 教職員研修の実施形態を工夫する。
 - ◇ 教科単位、学年単位、課題別グループ単位などの少人数で実施するなどの工夫をする。
 - ◇ 研修の方法も講義形式のほか、事例研究、ワークショップ、演習方式、授業研究など学校の実態や研修のねらいに応じて工夫する。



◇ 例：津野山地域における中高連携組織図





■「横」の連携 = 家庭、地域、事業所、行政機関等との連携・協力

キャリア教育は、一人一人の生き方にかかわる教育であり、子どもたちが**様々な体験**を通し、**多くの人と触れ合う**ことにより、生き方について考えるようにすることが大切です。

家庭との連携

- ◇親の子育て力を高め、よりよい親子関係を構築する。
例えば・保護者を対象とした講話、子育て相談、保護者の一日保育者体験など
- ◇家庭や保護者の養育の在り方、働くことに対する考え方や態度が、子どものキャリア発達に大きく影響する。
例えば・家事の手伝い、家庭での会話、子どもによる保護者の勤務先訪問など
- ◇学校と家庭が、日頃から情報発信、情報交換を密にし、信頼関係を構築する。
例えば・クラス通信、学校だより、家庭訪問、保護者面談などを効果的に行うなど
- ◇保護者と一緒にキャリア教育について学ぶ機会を設け、学校と家庭が共通理解のもと、子どもの育ちを支援する。
例えば・保護者対象進路講演や学校説明会への参加など



地域との連携

- ◇地域の自然、人材、行事や公共施設などの地域の資源を積極的に活用し、幼児の豊かな生活体験が得られるようにする。
例えば・地域での異年齢の子どもたちとの遊び、働く人との触れ合い、高齢者等との交流など
- ◇学校に地域の社会人を招く機会をつくり、様々な触れ合いの中から、大人に対するイメージやあこがれをもたせ「将来の自分」の姿を発見できるようにする。
例えば・地域の大人との触れ合い体験や交流活動、仕事の楽しさや、やりがいについて語ってもらうなど
- ◇地域の子どもの地域で育てる取り組みを展開していく。学校と地域が連携し、様々な活動に子どもが積極的に参加できるようにする。
例えば・ボランティア活動への参加、子ども会や自治会主催の行事への参加など
- ◇子どもが地域に出向き、地域の課題を発見し、それを解決する手立てを提案していく。
例えば・地域と連携し行っている地域課題解決学習、地域マネジメント学習など

就学前、小・中学校、高等学校

事業所との連携

- ◇産業界は、子どもたちを自立した大人に育てていくことができる教育力をもっている。働く場というのは、子どもたちにとって未知の世界であり、子どもたちを大きく成長させる場である。
例えば・職場見学、職場体験、インターンシップ、職業人講話など
- ◇地域産業への理解を深める。
例えば・企業探索、地域の職業調べ、企業と連携した課題研究授業など

行政機関等との連携

- ◇行政が行う支援事業を積極的に利用し、子どもたちのキャリア発達のために役立てる。
例えば・介護施設における就業体験、林業就業支援事業、担い手人材育成事業、農業法人による出前授業など
- ◇行政と民間が連携し、情報発信するインターンシップ・職場見学の受入企業一覧などを活用する。
例えば・高知県では「まなともネット」を活用した受入企業開拓など
<http://www.manatomo.net/>



- 学校等が地域や社会と連携するため、「学校支援地域本部事業」等の事業を活用しましょう。

◇地域住民の専門的な知識や経験により、子どもたちの学習に対する興味や関心が高まります。

◇多くの地域住民と接する中で、コミュニケーション能力や自尊感情が高まります。

◇周りの人たちへの感謝の気持ちや地域への愛情が深まります。

市町村教育委員会

※運営委員会を設置する。運営委員会は、既存の「開かれた学校づくり推進委員会」等の組織が代替することができる。

- ◇事業の企画・実施 ◇コーディネーターの配置 ◇地域への普及・啓発 ◇ボランティア等の人材確保
- ◇コーディネーター、教育活動支援員・学校支援ボランティアの養成 ◇事業の検証・評価 など

支援

学校支援地域本部



協力
依頼

学校等



コーディネーター

連絡
調整

- ◆学校支援活動の連絡・調整
- ◆学校支援活動プログラムの企画 など

教育活動支援員・学校支援ボランティア

支援活動



【学習支援】



【登下校の見守り】



【環境整備】



【クラブ活動支援】



【学校行事支援】



【図書館支援】

参画

地域住民

保護者、地域のスポーツ・文化団体、学生、様々な資格・経験・技能をもつ人 など



■ 就学前では

【家庭・保護者】

- 例えば** ◇保護者を対象とした講話 ◇子育て相談 ◇保護者の一日保育者体験
◇家庭における手伝い ◇連絡帳 ◇絵本の読み聞かせ など

【地域】

- 例えば** ◇散歩 ◇自治会や公民館での地域行事やお祭り等への参加 ◇高齢者等との交流
◇地域の子育て支援の活動 ◇地域の人との触れ合い（運動会、発表会、花の世話） など

■ 小学校段階では

【家庭・保護者】

- 例えば** ◇しつけ、子どもへの接し方 ◇家庭における役割分担、家事分担 ◇働くことを通じての
家族の会話 ◇職業人による講演会 ◇卒業生や地域の体験談を聞く会 ◇幼児、高齢者、
障害のある人との触れ合い体験 など

【地域・企業（産業界）】

- 例えば** ◇街中探索、社会科見学 ◇ボランティア活動 ◇自治会や公民館の活動 ◇お祭り等地域
行事への参加 ◇工場見学（社会科） ◇職場見学 ◇スーパーマーケット調べ（社会科）
◇保育体験、福祉体験 ◇テレビ局・新聞社見学（社会科） ◇お店調べ・仕事調べ など

■ 中学校段階では

【家庭・保護者】

- 例えば** ◇しつけ、子どもへの接し方 ◇家庭における役割分担、家事分担 ◇働くことを通じての
家族の会話 ◇キャリア教育講座（ゲストティチャー）、講演会（職業人講話） ◇卒業生
や地域の方の体験談を聞く会 ◇幼児、高齢者、障害のある人との触れ合い体験（保育実習
やボランティア活動） など

【地域・企業（産業界）】

- 例えば** ◇職場体験活動 ◇上級学校（高校・大学）訪問・体験 ◇ボランティア活動 ◇保育体験、
福祉体験 ◇自治会や公民館・図書館などの活動 ◇お祭りや伝統芸能などの地域行事への
参加 ◇職場訪問・見学（職業調べ） ◇社会科見学（工場見学・テレビ局・新聞社見学）
など

■ 高等学校段階では

【家庭・保護者】

- 例えば** ◇家庭の一員としてふさわしい役割分担、遂行 ◇将来の生き方に関する希望とその実現の
ため、学校生活や進路設計についての話し合いや励まし合い など

【地域・企業（産業界）】

- 例えば** ◇職業人講話 ◇奉仕体験・ボランティア活動 ◇出前授業地域ボランティア活動 ◇キャ
リアカウンセリング支援 ◇インターンシップ受け入れ ◇社会人との意見交換 ◇マネジ
メント講話 ◇上級学校との連携 など